

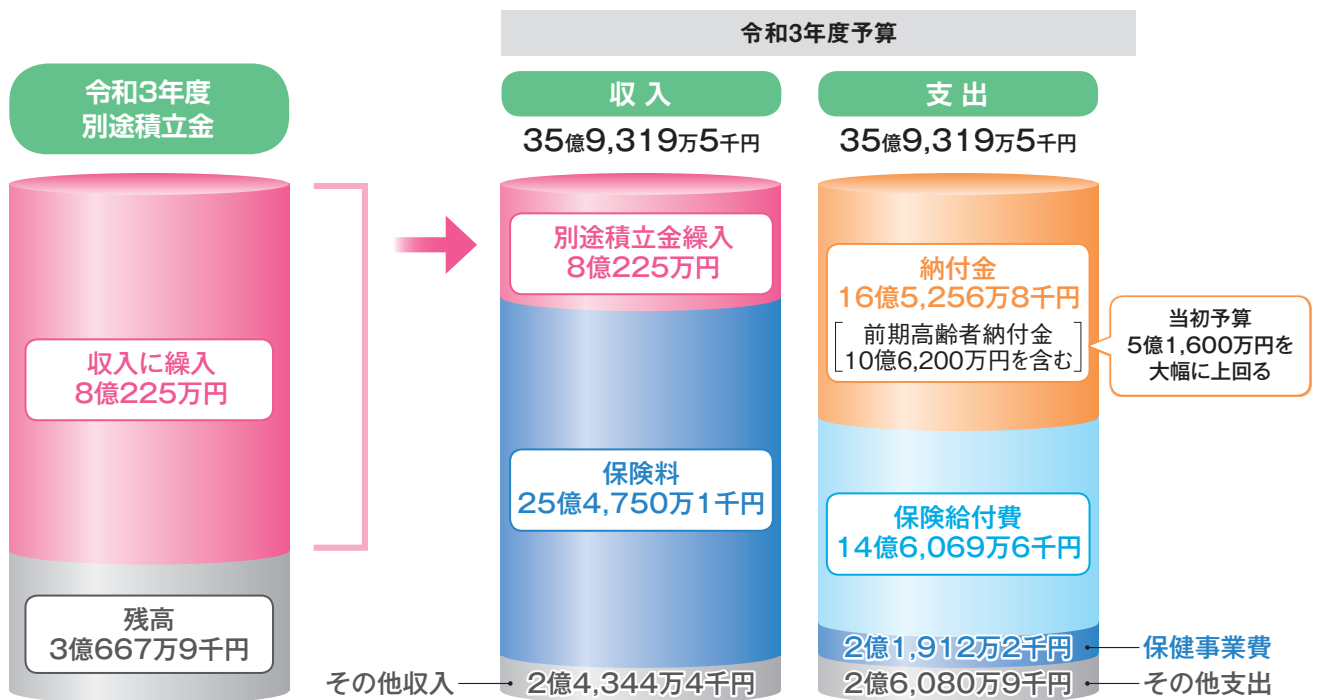
収入減少・支出増加に対応するために、令和4年度から保険料率の見直しへ

■ 前期高齢者納付金の大幅増加により別途積立金を取り崩し、年度内予算変更となり厳しい状況に

ダスキン健康保険組合の令和3年度支出予算額は前年度実績比125.3% (35億93百万円、7億26百万円増) と大幅に増加しました。最大の要因は、国へ収める「前期高齢者納付金」が、当初予算額5億16百万円を大幅に上回る10億62百万円割当てられたことです。

納付金割当額の支払いに対応するため、別途積立金を取崩して8億2百万円繰入れた変更予算をいたしました。収入につきましては、組合員の皆さまからお預かりする保険料の基礎数値となる標準報酬総額が減少傾向にあり、令和3年度も、長引く新型コロナウイルス感染拡大の景気への影響も考慮し、保険料収入は3.3% (87百万円) の減少を見込んでいます。

■ 令和3年度予算変更後の収入収支と別途積立金残高



■ 令和3年度の前期高齢者医療費が、令和5年度の納付金割当額を左右

保険給付費(医療費)は令和2年度大きく増加し、令和元年度比108.7%(14億25百万円、増加額83百万円)となったため、令和3年度も若干の増加を見込んでいます。

令和3年度の前期高齢者の医療費が、2年後(令和5年度)の納付金割当額を左右します。

今年度の取り組みが大変、重要となってきます。

また、令和4年10月からの短時間労働者のさらなる適用拡大(従業員101以上の事業所)や、政府が掲げる70歳までの就業機会の確保(努力義務)などにより、1人当り保険料収入の減少と保険給付費の増加が予想されます。さらに、団塊の世代が75歳を迎える令和4年度から、後期高齢者支援金の大幅な負担増加が見込まれます。

保険料収入を上回る支出が常態化しますと、組合運営が困難な状況に陥ることになります。

このような状況のもと、母体企業(株)ダスキンと共に健保財政の改善に向けた取り組みに着手いたしました。

「ダスキン健康保険組合は、なによりも働きさん一人ひとりが本当に幸福になってほしい。

しかも働きさんご自身だけでなく、ご家族も含めて。という創業者鈴木清一の願いが込められた事業です」

働きさんとその家族一人ひとりの健康を支え、共に歩む健康保険組合でありたいと願っています。

生涯現役社会を実現するために ~支えられる側から支える側に~ 今、私たちにできることは!

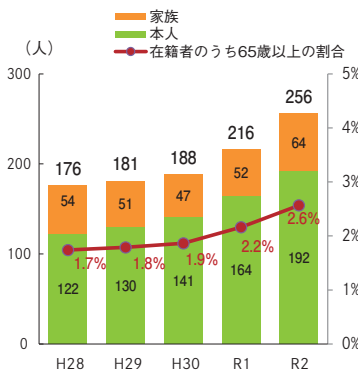
全事業所において、定年延長・雇用拡大により65歳以上の人数増加は今後も続きます。
がんや重症疾患の早期発見や生活習慣の改善などに、お一人おひとりの積極的な取り組みをお願いします。

65歳以上の医療費 全体の状況

※在籍者数は各年度末時点の在籍者を対象としています

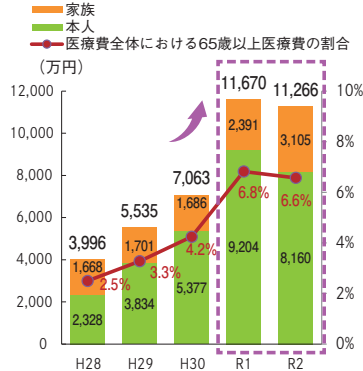
在籍者数の推移 (H28~R2)

人数、割合とも増加 (5年で2倍以上)



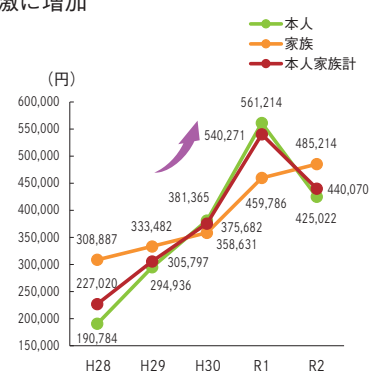
医療費の推移 (H28~R2)

医療費がH30からR1で急激に増加

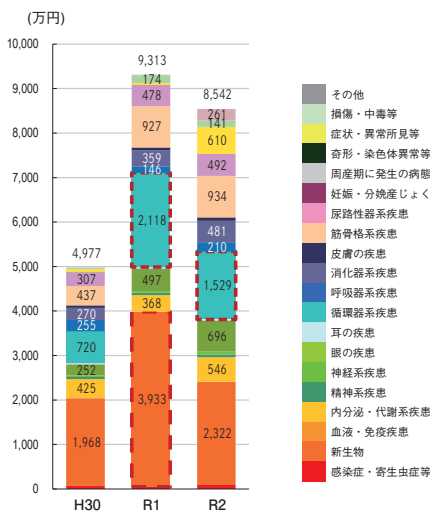


1人当たり医療費の推移 (H28~R2)

1人当たり医療費がH30からR1で急激に増加



疾病分類別医療費 (医科) (H30~R2)



新生物(がん)や循環器系疾患など、早期発見や重症化予防が可能な疾病の医療費がH30からR1で急激に増加

令和2年度の納付金が増加した原因は、令和元年度の医療費の増加です。

疾病別では、がんが約42%、循環器系疾患が約23%を占めています。

これらの疾病は健康診断およびがん検診やその後の二次健診の受診、生活習慣改善への取り組みで重症化を防ぐことができる疾病です。



何よりも早期発見・早期治療が肝心!!

- 健康診断を受診する。
- 有所見(要精密検査・要治療)の場合は二次健診を受診する。
- 産業医、健保医療職からの受診勧奨を受ける。
- ファミリー健診を受診する(ファミリー健診の受診率アップ)。→被扶養者の方へ、被保険者さんからの受診を勧める
- がん検診の受診と、有所見の場合は医療機関を受診する。
- 自己判断での、治療中断、服薬中断をしない。

65歳になってからではなく、今日から! 取り組みましょう。

組合員お一人おひとりの健康維持・増進への取り組みが医療費の適正化につながります。重症化による医療費の増加は、各個人の負担だけでなく、治療に伴う心身への負担、家族への負担も生じます。